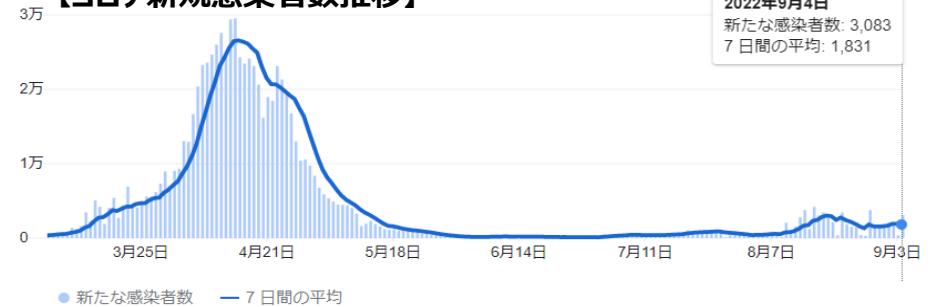


- 8月15日のPBOCによる利下げ以来、米中金利差の拡大やFRBの金融引き締め強化によるドル買いが進み、ドル人民元を押し上げた。足元主要都市でのコロナ規制も人民元の重石となり、ドル人民元はいよいよ節目の7に近づいている。
- 最近PBOCは人民元の基準値を強めに設定しており、加えて9月5日に今年2度目の外貨預金準備率の引き下げを発表。人民元安へのけん制を強めているように見える。ただし、9月5日にPBOC（中国人民銀行）副総裁劉国強氏が「人民元は全面安ではなく、SDRバスケットにおいてはドル以外の通貨に対して増価」、「為替レートの弾力性が増加し、マクロ経済と国際収支の安定装置として機能している」と発言しており、当局は必ずしも元安自体を阻止するスタンスは示していない。むしろ消費と投資が弱含みする中、輸出を押し上げる元安は歓迎する面もあるだろう。当局が問題視するのはドル人民元の上昇ペースで、あまりにも急速な上昇は人民元の先安観を助長しかねず、PBOCが望んでいる双方向への弾力性とは異なるわけだ。
- ドル人民元は外貨預金準備率の引き下げで上昇ペースが鈍化する可能性があり、また節目の1ドル7元近辺では右下表のような外貨預金準備率以外の政策ツールが検討される可能性もあるだろう。しかし足元の低調な中国経済を受けPBOCの追加緩和観測がくすぶる一方、FRBがより長く強力な利上げを行う可能性とドル高を容認する姿勢が意識される中では、上昇基調が変わらず1ドル7元を通過する可能性は十分ある。
- ドル人民元見通しの注目材料としては、まずコロナ検査常態化(高頻度、大規模)の効果が注目される。7月からの感染拡大局面は前回と比べて感染者数が低位に抑えられており、一部の都市で導入されたロックダウンが早期決着になるかは見極めたい。もう1点は、9月14日に予定されている米国の「2022台湾政策法案」審議。従来の米国の対台湾スタンスを覆すような内容であれば、米中対立が激化する懸念があり一段の人民元安につながる恐れがある。

【米中2年金利差とドル人民元の推移】



【コロナ新規感染者数推移】



【為替管理政策ツール一覧】

- 外貨預金準備率
- 外国為替リスク準備金
- 海外向け融資、海外からの資金調達関連のマクロプルーデンス調整係数
- 逆周期因子(カウンターシクリカルファクター)

出所:各種報道、PBOC、OurWorldinData、Bloomberg

©注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることがあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。